

■教育目的

分子構造を用いて、生体分子や医薬品の化学的および生物学的性質を説明できる知識を学ぶ。既存の医薬品がどのように発想・研究・開発されたかを知り、医薬品に対する理解を深める。ドラッグデザインの科学的な考え方を理解するために、標的分子との相互作用および基盤となるサイエンスに関する基本的知識を修得する。

【卒業認定・学位授与の方針：SD-①～④】

■学習到達目標

1. 医薬品の創製における過程について具体例を挙げて説明できる。(知識)
2. 新薬のリード化合物の創出と最適化の基礎的な方法論を概説できる。(知識)
3. 生体分子の分子構造から化学的性質と生体機能を説明できる。(知識)
4. 医薬品の分子構造から化学的性質と生物学的性質(代謝、生物活性)を説明できる。(知識)

■準備学習（予習・復習）

予習：配布プリントを読み、概要を把握しておく。(30分以上)

復習：プリントを読み返し、授業内容を整理しておく。参考書等で授業内容の関連部分を読んで理解する。わからない点は個別に質問すること。(60分以上)

■授業形態

講義

■授業内容

No.	項目	授業内容	学修／SBOコード
1	医薬品の探索と創製	i. 医薬品発見の歴史的概観 ii. 創薬におけるヒット化合物とリード化合物	
2	//	iii. リード化合物の最適化：薬物-標的分子の相互作用とファーマコフォア	
3	//	iv. リード化合物の最適化：最適化特性と創薬化学的戦略	
4	//	v. 最適化されたリード化合物からの医薬品の開発	
5	医薬品の標的分子	i. 創薬標的としての受容体、イオンチャネル ii. 創薬標的としての酵素 iii. 薬とキラリティー	
6	医薬品の名称	医薬品の名称とステム	
7～9	アミノ酸と高分子医薬品	アミノ酸製剤、ペプチド製剤、抗体医薬、抗体薬物複合体、粘膜吸収促進剤	
10～12	酵素と薬	酵素阻害剤のメカニズム 代表的医薬品の発明、開発の経緯	
13～15	受容体と薬	受容体とリガンド、作用薬と拮抗薬 代表的医薬品の発明、開発の経緯	

■授業分担者

樋口 和宏(No.1～6)、田湯 正法(No.7～9)、杉山 重夫(No.10～15)

■課題（レポート、試験等）のフィードバック及び成績評価方法

配布する練習問題などに取り組み、理解度を確認する。質問等は随時受け付ける。評価は定期試験の成績(100%)により行う。

■教科書

なし(配布プリントを用いる)

■参考書

『創薬化学』 長野哲雄、夏苅英昭、原 博(東京化学同人)

『創薬化学』 —メディシナルケミストへの道— 長野哲雄編(東京化学同人)

『スタンダード薬学シリーズ 8 医薬品の開発と生産』 日本薬学会 編(東京化学同人)

『ベーシック薬学教科書シリーズ 6 創薬化学・医薬化学(第2版)』 橘高敦史 編(化学同人)

『ベーシック創薬化学』 赤路健一、林 良雄、津田裕子 著(化学同人)

『ダンラップ・ヒューリン創薬化学』 長野哲雄 監訳(東京化学同人)など